Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2011.10
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.49

CONTENTS

- 個展を終えて －写真展「シェムリアップの風」開催記－
- 藤村里美氏講演「東京都写真美術館学芸員の仕事」
- ポートフォリオの制作
- 猪苗代撮影会報告
- 静物撮影会報告
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

個展を終えて
ー写真展「シェムリアップの風」開催記ー

松本ひさ子

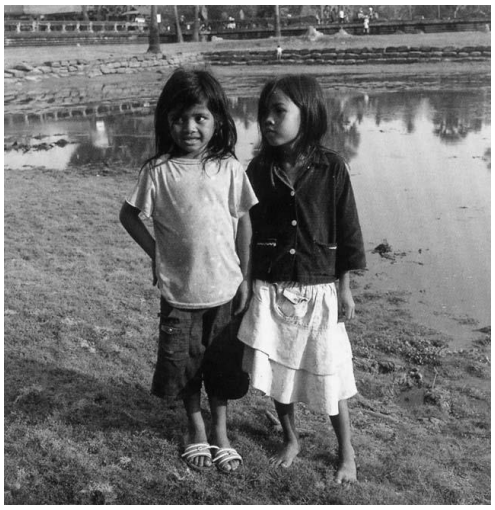
一度「個展」とやらをしてみたい！と漠然と思っていました。

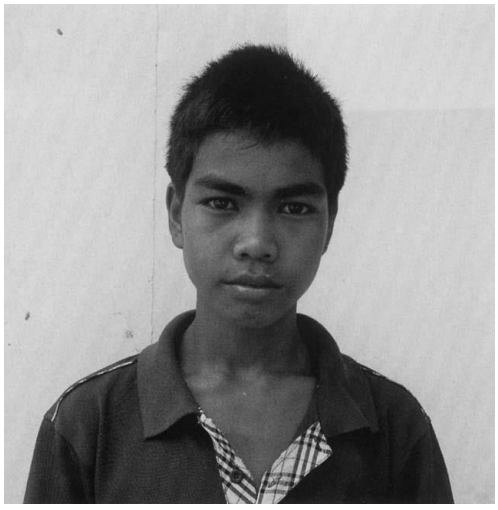
シェムリアップ旅行を終え、何日か掛けてブローニーフィルムの現像を終えた時、「もしかしたら出来るかも」から「やってみようか」と変化していきました。周りの人に吹聴して「やーめた」とならないように自分を追い込み、まだ気力と余力がある内にまず行動をとコスモスの新山さんに聞いて見たのが去年６月です。

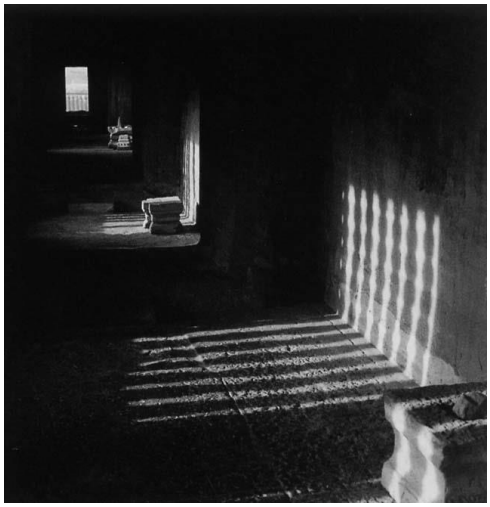
私が参加している里親制度のきっかけは、７年くらい前に富士フォトサロンで見た藤井秀樹さんの写真展『孤児たちの肖像』でした。支援活動の小さな一点でカンボジアの自立への貢献度は低いかも知れません。点もいつかは面に、トンネルもいつかは抜けられるはず、地味に長く続けて行こうと思っています。

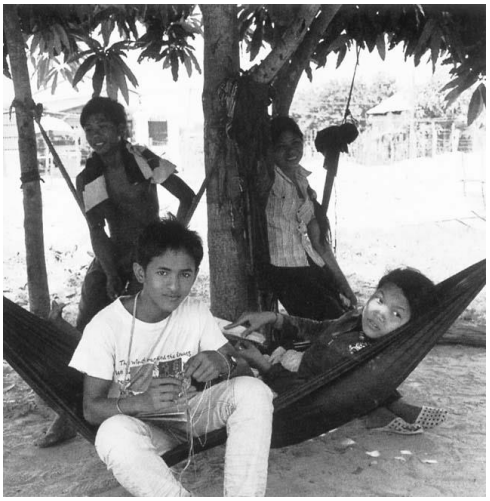
始めて降り立ったシェムリアップ空港は寺院を利用して造られたそうでタラップを降りて徒歩で入国します。夜のむっとした暑さと独特の臭いがあります。現地スタッフのタイさんが町のホテルまで送ってくれました。食事無し一泊が１５ドルと格安ですが私にとって何の不足もない快適なホテルでした。国道六号線に面していて夜が明けかかるとバイクやトクトクの音が聞こえます。信号は滅多になく渡るときは決して走らないで、車側が速度を加減してくれるからというのです。朝食は隣接したレストランで現地の人が食べているのを指さし注文、そのうちに偏食家の私の気に入ったシーフード系の米麺が定番となりました。カンボジアの通貨リエルは弱く（１００リエルが３円）、ドル歓迎で補助的なおつりでお目にかかります。コインはありません。

何といっても暑さ対策は必要不可欠です。あまり汗っかきでない私ですら日中一度戻ってシャワーと着替えと休息を取って出直しました。汗が目に入りピントが見えなくなる経験もしました。マスクも絶対必需品、土埃りがひどく喉が痛くな









り現地の雑貨屋さんで調達しました。

ＣＶＳＧの村や寄宿舎では片言の日本語と英語、似顔絵を描いたりして遊んでいました。食事は質素でタイ米のご飯に漬け物のような野菜がメインです。犬や猫が勝手に同居していてハエや虫も全く気にしていないようでした。小さい子は井戸から引いたホースで水を掛け合って遊び木陰のハンモックで休んだりしています。冷蔵庫は電気代が高いからと持ってる家は極めて少ないそうです。

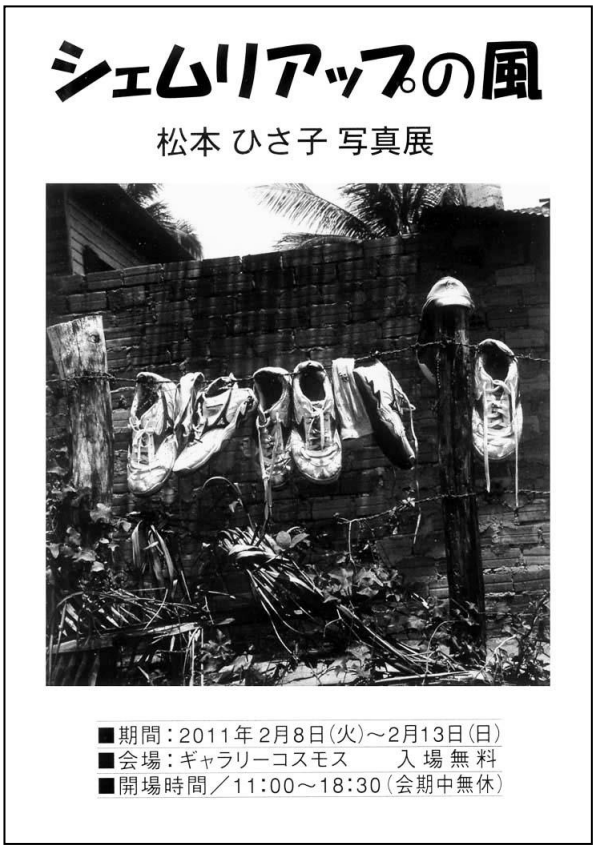
アンコールワットは長い工事中で他国の援助で修理が行われています。観光のみに頼りすぎない自立の道を模索しつつも現状は人々の意識の面からも課題はいっぱいです。

ＤＭが出来た時、展示が完了した時、ジワーっと実感が込み上げてきました。日程的な配分、広報、段取りなどは既に個展を多数経験しているＫ氏に教えて頂き、感謝しきれないほどお世話になりました。会期中は仕事を休みギャラリー通勤を楽しむことにしました。往きと復りは違う道を通りどこかレトロな昭和っぽい商店街を散策しました。

ゾーンの皆さんに沢山足を運んで頂いてとても嬉しかったです。お陰様で自分の納得のいく等身大の個展を無事終了することが出来ました。

覚えたカンボジア語は二つ・スースダイ（おはよう、）オークン（ありがとう、お世話になりました）

末筆に心より“オークン”合掌。夢のような経験をありがとうございました。



藤村里美氏講演
「東京都写真美術館学芸員の仕事」
（研究会総会での講演会）

浜野次郎

・日時：2011 年 2 月 12 日（土）15～17 時
・会場：文京シビックセンター区民会議室

藤村里美さんは、東京都写真美術館の学芸員。一般読者を対象とした著作には「写真の歴史入門第 2 部「創造」モダンエイジの開幕（新潮社）などがあり、研究会員のなかでも、藤村さんの企画した展覧会を見た、あるいは著作を読んだことがあるという方は多いかもしれません。

うつくしい作品に囲まれ、ひとつひとつの写真を評価，テーマごとに展覧会を構成してゆく…美術館の学芸員という職種はだれもがあこがれるものでしょう。その一方で学術論文の執筆などアカデミックで近づきがたいイメージもありますが、私たちの前にあらわれた藤村さんはそうした固定観念とはことなる気さくでチャーミングな方でした。

今回の講演では公立美術館の運営、作品の保存、展覧会を企画構成する側の苦労など私たちが日頃知る事のない貴重な情報を得ることができました。

経歴

● 大学時代は多摩美術大学で美術史・美学を専攻していた。当時は大学でも写真史の授業はなく、重森弘庵先生の写真論を聴講した。卒業論文では野島康三を中心とした日本の近代写真史に取り組んだ。

● その後草月美術館につとめていたが、9 年前に現在勤務している東京都写真美術館にうつった。学芸員として最近の仕事は「私をみて！ヌードのポートレート展」「出発-6 人のアーティストによる旅 」など。一般には 1960 年代から現代をあつかう学芸員と思われているが専門は 1920～30 年代の「新興写真」が専門。

学芸員とは

● 英語ではキュレーター、仏語ではコンサバターと訳されるが国によって内容にかなりの相違がある。我国においては博物館法に定める国家資格のひとつで、4 年制大学で所定の単位をとる、あるいは試験を受けることで資格をとることが可能。美術系の大学以外に文学部でも資格がとれる。ただし、実際に学芸員として職を得ることはかなりの「狭き門」。たまたま専門とする分野の学芸員を美術館の側で求めているかどうか、が美術館職員になれるかどうかの分かれ目となる。

東京都写真美術館について

● 写真発明１５０年にあわせて横浜美術館、川崎市民ミュージアムなどと同時期に開館した。正面玄関は目黒区側。美術館の平面図をみると一般に公開されている展示室やロビーと同じくらいの広さのバックヤードがある。この部分で職員は働いている。

運営組織体制

● 職員は約 30 名。福原館長のもと、副館長と管理係長は都からの出向。その下の組織は大きく分けて管理課（建物の管理と映画関係を担当）と事業企画課（旧学芸課）に分かれ、事業企画課は①普及係（広報-教育部門）と②企画係（展覧会運営と作品管理）からなる。私が所属する事業企画課企画係は実働 7～8 人。

東京都歴史文化財団

● 写真美術館をはじめ８つの施設（江戸東京博物館、東京都美術館、東京都現代美術館、東京都庭園美術館、東京文化会館、東京芸術劇場、トーキョーワンダーサイト）の運営をおこなっている公益法人。10 年くらい前から施設間での人事異動をおこなっている。これらは一見マイナスのようだが、実際には備品の融通や古文書を読むなど専門技能において協力しあうといったプラスの要素も多い。美術系の５館の間の風通しはかなりよくなったと思う。

指定管理者制度

● 財団は施設の管理・運営を包括的に代行しているが、都からの委託契約には７年ごとの見直しがある。

展覧会を開催するまで

● 通常 3 年半前から準備を開始し、
① 企画立案
② 学芸ミーティング（プレゼン）
③ 内部決定
④ 館長プレゼン
⑤ 企画諮問委員会（外部の有識者による）
⑥ 議会（予算獲得）
⑦ 開催決定
というプロセスを踏む。

● 稀には予定していた展覧会が流れてしまうなどのことがあり、かわりの展覧会は半年程度の短期間で準備をおこなうこともある。また時には立案から3年半の間の社会の変化により企画が時代に合わなくなってしまうこともあり、悩ましい。

美術館の運営財源

● 年間約１０億円の運営予算は７０～８０％が東京都からの委託費（税金）でまかなわれており、残りが自主財源。これらのなかには維持会員（企業）からの寄付７，０００万円が含まれている。１０億円の予算のなかで展覧会に使えるのは 2 億円程度。ひとつの展覧会の平均的な予算は１，５００～２，０００万円。

福原館長の就任と来館者数の増加

● 現館長であるに福原義春氏は資生堂名誉会長。写真家福原信三の甥で、自身も写真家。館長職は非常勤で週に１～1.5 回美術館にいらっしゃる。無給。福原氏が就任した１０年前から来館者が増えてきた。それ以前は年間平均２０万人だったが、現在は約４０万人となっている。携帯電話にカメラが入る時代ということもあり写真のファン層は拡大してきている。（ちなみに施設は当初年間３０万人を想定して設計されておりエレベーターなどの待ち時間が少々長くなっている）

● 館長の肝いりで広報に力を入れたことが来館者増加の大きな理由と考えられる。

欧米ではあたりまえのことだが写真美術館は我国の公立の美術館でいち早く広報担当スタッフをおき、現在も広告代理店出身の者など３名

がマスコミに情報を流している。新聞に一面広告を出すなどを行う広報には大変お金がかかるため、写真展ごとにターゲットとなる年齢層に応じたメディアを選ぶなど工夫をしている。

収蔵作品の保存について

- 現在の収蔵作品点数は約２５，０００点。収蔵庫は積層式になっており、プリントの種別に応じて最適な保存環境を設定している。白黒写真が温度２０℃湿度５０％なのに対しカラー写真は温度１０℃。展示室も温度２３℃湿度５５％と作品の保存本位の環境。
- カラーの作品は１９７０～８０年代から増えてきた。さらに近年インクジェットプリントによる作品も多い。ここ５年でインクの質が変わり、耐久テストでは従来のカラープリントよりも強いという結果になり、美術館も購入をはじめている。

作品の購入

- ある時期から作品購入の予算がなくなってしまったが、ようやく３年前から年間７，０００万円の予算がつくようになった。現代作家の作品購入にあたっては１０年後も作家としてみとめられているかどうかを念頭において選定する。毎年寄贈があるため予算にかかわらず毎年２，０００点程度収蔵作品が増えている。
- 近年の傾向としては作品が大型化している。大型作品の収蔵については今度の改装時に対応することになっている。

プリントスタディールーム

- 一つの展覧会で展示できるのは１５０点程度。平均すると個々の収蔵作品が人の目に触れるのは１０年に１度ということになる。プリントスタディールームでは展示室と同じ条件で、希望するプリントをじっくり見ることができる（事前申込１点につき３４０円）。

芸術写真の精華–日本のピクトリアリズム展

- 本展覧会は金子隆一学芸員が担当、私が副担当。戦後リアリズム写真が主流となったことにより、我国のピクトリアリズム写真は写真史のなかで埋もれてしまっていたが近年飯沢耕太郎氏、伊藤俊治氏などにより再評価、海外からも日本のオルタナティブ・プリントは脚光を浴びてきている。ピクトリアリズムはこれまでながらく開催したいテーマであったが、作品を集めることが困難だった。
- 金子学芸員は２０年前から地方の作家の遺族をたずねてコレクションを増やしてきた。本展ではさらに山陽・山陰・東北・名古屋などの美術館から作品をお借りし、全国のピクトリアリズム写真をはじめて一堂に集めた展覧会が実現した。研究会の皆様も是非展覧会に足をはこんでいただければと思います。

質疑応答

Q.

6～7 年前に渋谷龍吉という写真家の作品が写真美術館に寄贈になったのですが、こうした寄贈された作品はどのように保管されるのですか？

A.

寄贈された作品は①1 点ごとにカルテをつくり②複写をし③マッティングをし④最適な保存条件の収蔵庫に保管。たとえば映画フィルムなどは5℃の収蔵庫に置く。渋谷龍吉作品（ガラス乾板）は一般の収蔵庫に入っているはずです。

Q.
収蔵作品で最も古い作品は？
A.
年代は確定できていませんが、(160～70 年前の)ダゲレオタイプが最も古い作品。

Q.
収蔵作品で最も高価な作品は？
A.
アダムスの「ヘルナンデスの月の出」がこれまで購入した最も高価な作品。(約 2,000 万円) ちなみに博物館が購入する時の価格は市価の 7 割くらい。写真作品の国際的なマーケットはこれまでアメリカが中心であったが、リーマンショック以降はヨーロッパ、特にイギリスが中心となってきました。
海外の巨匠の作品は価格が高騰して現在ではなかなか買えません。近年は展覧会にちなむテーマで購入を決定する、あるいは個展をおこなった作家から作品を購入することが多くなっています。

Q.
海外の美術館に比べて東京都写真美術館の予算はどうか？
A.
MOMA(ニューヨーク近代美術館)などの予算は一つの展覧会で 2 億円程度。
東京都写真美術館では 2,700 万円程度が上限。

Q.
日本の写真教育と海外の写真教育の違いについてどう感じますか？
A.
一般の大学でも近年写真史を授業で教えるようになってきたが、欧米に比べると 10 年くらい遅れていると感じます。たとえば欧米では美術史や社会学専攻の学生にもプリントなどの写真の実技教育があり、写真界を支える裾野をつくっています。(プリント 1 枚に対するリスペクトが日本と海外では異なる)
写真美術館でも教育普及係の担当職員が 2 名おり、約 70 名のボランティア・スタッフとともにプリントなどの各種ワークショップを開催しています。特に年に 2 回程度は小学校に「出前」で授業をおこなっています。

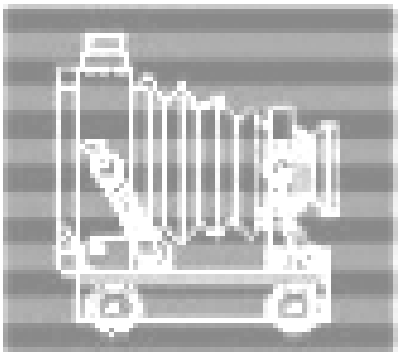
Q.
今後の改装にあたって若い人たちが気軽に暗室技術に親しめるようにできないでしょうか？
A.
施設のハード面の問題ではなく、むしろ暗室を管理運営するスタッフをつけられないなどソフト面に難しい課題があると思います。

Q.
5 年前くらいから東京都写真美術館の会員なのだが、展覧会でつかわれている写真が偏っている気がする。先日の展覧会ではヘミングウエイのポートレートを初めて見たがとても良い作品だった。こうした作品がなかなか出てこないのに対して、古写真をあつかう展覧会が多すぎるように思うのだが…。
A.
館長からは収蔵品展ではなかなか人が入らないのでは、と言われているが学芸員は展覧会ごとに新たな切り口で見せることにより、収蔵作品をできるだけ偏る事なく生かすべく頑張っています。展覧会に出てこない作品についてはプリントスタディールームを利用して鑑賞することも可能

なので、皆さんこれからも美術館にどうぞ足を運んでください。

欧米の同種施設と比較すると若干こじんまりとした印象もありますが、東京都写真美術館が我国の写真界をリードする重要な役割を果たしていることは誰もが認めるところです。毎年途切れる事なく沢山の展覧会が開催されており、多様なニーズに応える企画の幅広さと質の高さに敬服の念すら感じますし、いつ足を運んでも何かしら新しい発見があるすぐれた美術館だと思います。

講演では新しい作家の紹介や、次世代のための作品保存、歴史に埋もれた作品を発掘し新たな光を当てるといった公立美術館のもつ使命が伝わってきました。また社会全体がめまぐるしく変化するなかで、行政から一定の年間入場者数が求められるという面も無視できず、文化的/専門的な尺度だけではなく学芸員には常に総合的なバランス感覚も求められていると感じました。



オリジナルプリントの美しさを追求する研究会にとって、国内外の２７，０００点の作品をじっくりと見ることができるプリントスタディールームは研究のためのまたとない施設です。個人で展覧会に足を運ぶだけでなく、私たちは写真美術館をもっと深くもっと積極的に活用してゆきたいと思います。

ポートフォリオの制作

荒井崇

念願の研究会ポートフォリオが完成に近づいて来ました。

箱詰め及びスポッティング作業は、会員の浜野さん宅(2011.6.19)と倉又さん所属会社の会議室(2011.7.23)をお借りし、２日に分けて作業を行いました。メンバーは、写真展実行委員と幹事の有志、そして写真修正のプロである鈴木武志さんを加えたメンバー８人。何とか完成にめどが立ちました。

着手から足掛け２年。皆様のご協力により、予想以上の完成度に仕上がったと考えております。

そこで今回は、ポートフォリオの仕様を紹介したいと思います。

浜野さん自宅での箱詰め作業

【ゾーンシステム研究会ポートフォリオの仕様】

●名称：PORTFOLIO Ⅰ

・さまざまな案があったのですが、一般に受け入れられそうな案は難しく、結局オーソドックスな名称に決定。

●印画紙サイズ：バライタ８x１０

●制作数：３０セット

●箱：USA カチェット社 7020（8x10)(深 1inch)

アーカイバル材料製で深さの浅いヒンジ付箱を選定。

●合い紙：ピュアガード 03（厚み 0.1㎜）

・PH が管理されたクリーム色の厚手無酸性紙を使用し、作品を挟んで収納。

・発注先は株式会社資料保存器材。特注寸法での裁断も含めて発注。

●プリントへの表記

・表：名前・エディション記入（サインペン）

・裏：名前・タイトル・プリント年（鉛筆）

（当初、表用サインペンは LIGHT IMPRESSIONS MARKING PEN 使用の予定であったが、生産中止のため SAKURA PIGMA を代替品として採用）

●内容書類：上質紙<180>（中性紙）(厚み 0.25㎜)

・発注先は伊勢紙業有限会社。

・中性紙ではあるが、PH 管理がされてないので、プリントの合い紙には適さないので注意が必要。

・作者名/タイトル/データ/中島代表あいさつ文/故平木先生のことば、を顔料インクジェットにて印刷。（文章内容は次ページ以降に記載）

・故平木先生のことばに関しては、過去の研究会写真展に寄せていただいた文を引用。平木先生の奥様の御了解を得て記載した。

● 保管用袋：チャック付ポリエチレン袋（サイズ：480x340（厚み 0.08㎜））

・箱の中に乾燥剤を入れて保管可能なよう、チャック付とした。

・乾燥剤のお勧めは、フジフィルムの「キープウェル」単なる乾燥ではなく、湿度を一定に保ってくれる。（ヨドバシ等で入手可能）

●寄贈先：検討中

●一般販売個数：５セット前後

●販売価格：120000 円

●箱の表記：インクジェット印刷によるシール

ビジュアライズ
(オリジナル・シルバープリント)

写真は、19世紀に銀板写真として誕生し、その時代の優れた技術や技法を取り入れて発展してきた。現在、写真の主流は銀塩写真からデジタル画像に切り替り、画像処理や通信機能においてその利便性は大きなものになっている。
しかし、従来の銀塩写真は、現在に至るまで長く安定した技法として、これまでに誕生した他の技法に比べてみてもきわめて独特の美しさを秘めたイメージとして、多くの人々に支持されて来た。
その理由は、銀の化学変化も手伝って、あらゆる物の中に美しさを見出す装置として有用されてきたからだ。

アメリカの写真家アンセル・アダムスは、この銀塩写真のプロセスをより安定させる技法としてゾーンシステムを考案し、モノクローム銀塩写真を高い次元で確立してきた。

ゾーンシステム研究会は、1994年にスタートし、大型カメラによる銀塩モノクローム写真の特長をより深めたいという思いからゾーンシステムを学習し、活動してきた。
写真とは、物や風景の美しさとその細部をよりはっきり眺め、所有したいという人間の欲望に根差している。しかし、研究会は、単に現実の姿・形を撮るばかりではなく写真を一つのアートとして、撮影会、旅行、物や人の出会い、偶然の光、移ろいやすい自然風景にカメラを向けてきた。大型カメラの特性も相まって、現実の世界をシャープで豊かなトーン、そして、モノクロームの抽象の世界に、私たちは長年引き付けられてきた。

ところで、私たちは、新たな技法を学習する中で、アダムスが語るところのビジュアライズという言葉の持つ意味に興味を強くしてきた。研究会が16年も続いている理由もここにある。
ビジュアライズとは、現実の光景を写し取ることに変わりないが、現実の被写体に捕れるだけではなく、自身の内側から派生する意識をより強くイメージすることで最終プリントを予知し、それは暗室におけるフィルム現像やプリントテクニック、そして、展示までも含むということに気が付いた。

私たちの撮影には、長い時間を必要とする。逆さまに映るピントグラスの様々な光に目を凝らし、露出の決定の前に自分が望む最終プリントがどうなるのかビジュアライズする時間は短くはない。このことは被写体に対して自身の意志によってコントロールすることのできるゾーンシステムという写真術に依るところが大きく、ここに私たちは新たな視覚を得たと感じてきた。

昨今、テクノロジーの発達は、写真からフィルムも印画紙も奪い去り、写真という枠組みさえも多様化の中で曖昧になってきている。この時代、私たちにとってゾーンシステムとの出会いは幸運だった。撮影、フィルム現像、プリントまでの処理経験が結果としてビジュアライズを保証し表現も含めた銀塩写真をより深め、写真活動を持続するための大いなるエネルギーを受け取っていると常に感じてきたからだ。

オリジナル・ポートフォリオの制作は、研究会にとって初めてのことになる。デジタル技法が注目され、グラフジャーナリズムや印刷メディアの強い日本において、ポートフォリオがどのように扱われるのか興味が尽きない。
しかし、研究会は、写真の現況に関係なくポートフォリオの制作は、当初からの目的の一つであり、それは、研究会の活動の記録として、また、長年オリジナルプリントに拘り続けてきた我々にとっての責務であると思っている。

ここに収めた写真は、参加した一人一人がビジュアライズした結果なのです。

ゾーンシステム研究会代表　　写真家　中島秀雄

写真に託する

写真は写っていればいいというものではない。
どのように写っているのか、またどのように見せるのかが大切な要件だが、
それ以前にもっと大切なことがある。
それはなぜ写真を撮るのか、という動機の問題だ。
写真の写りや仕上げなど出来栄えはおおむね技術的な問題だが、なぜその写真を撮ったのか、それは撮られたのかという動機は撮影者の心の問題、つまり精神の表れなのだ。
じつは写真に撮りたい何かとは眼前のものやこと、レンズの前の事態だと考えがちだが、
それ以前にその対象を撮影したいという心境、平たく言うと気持を留めおきたい、
取り置きたいから撮るのだといえる。
そしていい写真にはその気持が立ち現れる。
またそうした確乎たる動機に支えられた写真は、見せるということ、
つまり仕上げにも十分考慮が盛り込まれているものだ。
信念や志を携えた写真活動は、写ればいいという目標のみを掲げない。
ゾーンシステム研究会の近年の活動はまさにそうした方向がはっきりしている。
一見撮影技術の研究会のようだが、
活動歴を顧みるとその根底を支える知的な営みにも関心が払われ、研鑽に余念がない。
いまやデジタル主流の時代。
だが最新のモノクロ専用デジタルプリンターが４色や５色のグレー系インクを使っていることなど、まさにゾーンシステムの思考方法だ。
しかし、それは階調が出せればいいという技術であり、オリジナルなゾーンシステムはそうではなく、撮影時からなぜそれをそう再現するのかを、撮影意図にかんがみて想定する。
こうした総合的な撮影行為が写真に託する気持を具現した作品となり、
いまや危機に瀕している「写真の価値」を維持してくれるのだと思う。

写真評論家　平木収

作品リスト

1. Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005　中島秀雄
　4x5　125mm　POLAROID Type55　F45　6sec　selenium toner +α

2. The lost pier　北野龍一
　4x5　210mm　TMAX400　F32 2/3　1/60sec　selenium toner　San Francisco

3. Leaf　赤羽章治
　8x10　300mm　TMAX100　F16　1/30sec　selenium toner　長野県鎌池

4. 乱流　橘田功
　4x5　180mm　TMAX400　F45　1/15sec　selenium toner　カリフォルニア・ヨセミテ渓谷

5. 雲湧く　川北弘
　6x6　38mm　320TXP　F8　1/125sec　selenium toner　山梨県清里

6. Beach　内田順
　4x5　180mm　TMAX400　F32　1/30sec　selenium toner　宮崎県

7. Cabbage　荒井崇
　4x5　210mm　320TXP　F32　10sec　selenium toner

8. 海景　小菅秀一
　4x5　90mm　TMAX100　F45　1/2sec　selenium toner

9. 安濃ダム　藤森利昭
　4x5　120mm　320TXP　F22　1/8sec　selenium toner

10. レインコートのスイス衛兵　葛城忠彦
　6x6　80mm　TMAX400　F16　1/60sec　selenium toner

11. 春待つ川畔　金子正道
　6x6　80mm　TMAX400　F16 1/2　1/60sec　selenium toner　福島県猪苗代町

12. 青林檎　浜野次郎
　4x5　210mm　320TXP　F32　4sec　selenium toner

13. a symphony　古谷津純一
　8x10　190mm　TMAX400　F32　1/10sec　selenium toner　茨城県高萩市

14. レジャー　岡崎克之
　4x5　150mm　320TXP　F22　1/30sec　selenium toner　千葉県稲毛海岸

15. 静寂の中の激流　石井政吉
　4x5　150mm　ACROS 100　F64　4sec　selenium toner

16. 凍てるモンステラ　鈴木武志
　6x6　210mm　ACROS 100　F45　35sec　selenium toner

17. High Tide　越後久雄
　4x5　210mm　TMAX400　F45　8sec　selenium toner

18. horizon　藤田昇
　4x5　150mm　TMAX400　F64　1/4sec　selenium toner

19. Lighthouse, Pigeon Point, CA　畑文夫
　4x5　210mm　TMAX100　F64　1/2sec　selenium toner

PORTFOLIO I

猪苗代撮影会報告

・日時：2011 年 2 月 19 日（土）～2 月 20 日（日）
・場所：猪苗代湖
・参加者：中島代表、越後、岡崎、葛城、金子、川北、酒巻、藤田、宮内、北野

初日９：３０JR 猪苗代駅集合。午前中は猪苗代湖の南東部で湖畔の風景、しぶき氷、等を思い思いに撮影。比較的風も弱く、晴天に恵まれて、撮影条件は上々。
午後は、有栖川宮別荘跡である「天鏡閣」の周辺、建物内部等を思い思いに撮影。
宿泊は、湖畔にあるホテル「レークサイド磐光」。

翌２０日は、再度最初の場所に挑戦。対岸にある有名な天神浜のしぶき氷に挑戦。やや時期が遅く、カメラ雑誌に見られるような、見事なしぶき氷はなかったものの、十分被写体には恵まれて、楽しめました。その後、再度場所を移して、再度「天鏡閣」、雪の林、川、橋等を撮影。夕方、現地解散となりました。

年によるのでしょうが、昨年のピラタスと云い、今年の猪苗代と云い、雪若しくは氷を狙うのであれば、２月より１月の方が条件がいいように感じました。

北野龍一　記

静物撮影会報告

・日時：2011 年 4 月 30 日（土）13:00～17:00
・場所：文京区シビックセンター 5A/5B 会議室
・参加者：中島代表、松本、荒井、北野、浜野、鈴木武志、宮内、酒巻、岸、倉又、葛城、川北、久保田、穴澤、本田幸男

今回の静物撮影会は 13:00～21:00 の予定であったが、震災の影響でシビックセンター会議室夜の使用が禁止となり、13:00～17:00 という短い時間での撮影となった。しかしながら、中島代表と今回の担当幹事である浜野氏の周到な機材準備により、スムーズに撮影が進んだ。

撮影セッティングは以下３つ

● 白バックでのガラス食器撮影

ガラス製品の撮影は、「白バックは逆光」「黒バックは順光」というセオリーがあるが、今回は白バック。ライトは被写体では無く、斜め上から白バックへ向けて逆光状態とし、ガラス製品を黒いシルエットで撮影。反射を抑えながら悪戦苦闘の撮影となった。

● 茶系バックでの金属製調理器具・せんべい菓子等撮影

まず机の端に金属製調理器具をテープで貼り付け、真横から順光で撮影。これも写り込みを見ながらの撮影。

更に、金属製調理器具の場所に、おおきな丸いせんべい菓子を置き換えて撮影。月のクレーターのようなディティールを狙う。

● 黒バックでの綿・そら豆等撮影

床に黒いベッチン布を敷き、上に綿やそら豆を置いて撮影。ベッチン布は、反射が少なく、黒バックとしては非常に良い生地であるが、しわは禁物、酒巻さんにアイロンをかけてもらい撮影に入る。

まずは床に置いた綿のディティールをストレートに撮影。しかし問題は三脚の固定。真下にカメラを向けるのが至難の業、アンバランスな三脚を椅子やテーブルにテープで固定しながらセッティングを行った。松本さん曰く「多少被写体を斜めに置いたほうが良かったと思う。」次回は斜め置きでトライしてみたい。

その後メンバーは、時間の許す限り、思い思いの被写体にトライ。
短い時間の撮影であったが、思いのほか充実した静物撮影会となった。

荒井崇　記

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2011年2月11日(土)

文京区シビックセンター　3B 会議室

・出席者：中島代表、山本、石井、荒井、宮岡、鈴木武志、岡崎、北野、橘田、浜野、越後、宮内、倉又、葛城、金子、藤森、皆川、臼井、川北、穴澤、畑、蒲（セミナーのみ）

【総会】

■総会の成立（事務局）

現会員３８名

出席２０名　※および白紙委任提出１１名

従って総会は成立

■中島代表挨拶

● 銀塩写真をめぐる環境は厳しくなってきている。フィルムや薬品などが急に入手できなくなる場合があるので、つねに複数の材料をマスターしておくようにしたい。

● 今年のスローガンとして「冒険すること」を挙げたい。常に新しいことに踏み出そう。

■議長の選出

倉又氏を議長に選出した

■昨年度活動報告（事務局）

■昨年度収支報告（同）

■監査報告（宮岡監査役）

■活動計画案（中島代表）

● 写真展は１１月にギャラリーコスモスで行うことでほぼ固まった。

● ワークショップの日程はほぼ決まった。

（4 月 10, 24 日、5 月 8, 22 日、6 月 5, 19 日）

再受講者は１０％割引とする予定。この他プリントに特化したワークショップも行いたい。

● 絶版となった「ゾーンシステムハンドブック」の改訂版を検討しているので、希望や指摘があれば寄せてほしい。

■予算案（事務局）・・・　原案で承認された

■その他議案（事務局）

● 会則改訂案の説明と決議

＊役員の選任と任期（代表が推薦し、総会で選任する。任期は原則として１年）・・・原案で了承された。

＊中島代表への「活動支援費」を新たに設け、イベント開催ごとに１万円を上限として支払う・・・原案で了承された。

＊総会開催の規定・・・「会則の改訂は総会で議決する」修正のうえ、承認された。

＊新入会員の初年度会費について・・・原案の「７～１２月入会の場合は半額とする」を「５～８月入会は２／３とし、９～１２月入会は１／３とする」修正のうえ承認れた。

■議決

● 修正された会則に基づき、現役員を賛成多数で選任した。

【セミナー】

「東京都写真美術館学芸員の仕事」

講師　藤村里美氏

2011 年 4 月 9 日(土)

文京区シビックセンター ３B 会議室

・出席者：中島代表、古谷津、橘田、岡崎、石井、金子、葛城、松本、酒巻、荒井、北野、畑、倉又、皆川、浜野、鈴木武志、穴澤、川北

・作品持参者：古谷津、橘田、岡崎、金子、葛城、酒巻、北野、畑、浜野、鈴木武志、穴澤、川北

■静物撮影会

● 2011 年 4 月 30 日（土）午後、文京区シビックセンターにて行う。

■田中英司氏の遺品について

次の三種類とする

1.　研究会の資産として会員に貸し出し、又は共同使用とする機材

（カメラ、引伸ばし機、ドライマウントプレス、マットカッターなど。）

２．会員に販売する機材

（売り上げは研究会の収入に繰り入れ）

３．田中氏の写真作品。

（売り上げはご遺族にお渡しする）

＊リストを作成し、ホームページに掲載予定。

■写真展について（実行委員長より）

１．会場・会期

ギャラリーコスモス　 11/8（火）～11/20（日）

２．準備スケジュール

● 6 月例会

DM 用、プレスリリース用作品決定（５種くらい）

（昨年 12 月からの例会提出候補作品全て持参）

● 7 月例会

作品決定 1

（昨年 12 月からの例会提出候補作品全て持参）

DM ・プレスリリース用作品完成（指示された方）

（キャビネサイズ　5 種 x40 枚くらい）

● 8/初旬　プレスリリース書類発送

● 8 月例会

作品決定 2

（昨年 12 月からの例会提出候補作品全て持参）

● 9/初旬頃　DM 完成

● 9 月例会

最終プリントチェック 1

● 10 月例会

最終プリントチェック 2／額装チェック 1

・各自額装したものを持ってくる。

● 11 月例会（11/5（土））

額装チェック 2／発送

・当日夕方作品発送（宅急便）

・予備のアクリルも用意しておく

３．準備要領

額装は各自で行う。（今年から）

・5 月例会で、額装ワークショップを行い荒井氏が指導する。

・参加できない方にはわかりやすいテキストを配布。

・できるだけ過去作品のマット・額を流用していただく。

・サインはスタビロ 8046 鉛筆又はライトインプレッションサインペン

（その他良いものが見つかればそれも加える。）

・エディションを入れる。（昨年同様分母は任意）

４．販売品目

● キャビネ作品

・昨年同様販売する。

・盗難・紛失は十分注意。（ただし、万一無くなった場合は実行委員・受付の責任を問わないことを条件に参加いただく）

・販売展示方法：会場に 1 点のみ展示。受付に売る分を保管。

（会場にハガキサイズの展示用入れ物があるが、キャビネが入らなければ別の方法を検討。）
・価格：1000 円（昨年と同じ）
● 展示作品・ゾーン解説ペラ・会報
・価格：昨年と同じ
● ポートフォリオ
・価格未定
●受付には手提げ金庫を用意する（盗難防止）

５．パーティー

● 費用は写真展参加者全員負担
（昨年同様不参加者も負担）
● 場所はギャラリーコスモス
● 日程は 11/12（土）夕方希望。

６．展示レイアウト

● 今年も作者コメントは無し。タイトルのみ表示。
● テーマ作品（静物写真）の展示方法は、作品の内容を見てから決定。

７．レクチャー

● ゾーン解説レクチャーを 11/12（土）午後に行いたい。

■ポートフォリオ

● **プリント提出期限**：５月例会に延期
● **提出枚数**：予備を含めて３３枚提出
スポッティングは原則として行わないこと。
（やり方を後日決定）
● **サイン**（中島代表のチェックで OK の方のみ）
＊表面右下にサイン、表左下にエディション番号（分母は 30　すなわち 1/30～3/30)を記入する。
（いずれもアーカイバルサインペンで記入）
（額装しやすいよう余白確保のため、文字高さは 6㎜ 以内で小さく記入のこと。）
＊裏面中央付近にサイン、プリント年、タイトル
（いずれも柔らかい鉛筆で記入）

■その他

● 古谷津さんからトナーに代わるアーカイバル処理について話があった。

2011 年 5 月 14 日(土)

文京区シビックセンター ３B 会議室
・出席者：中島代表、橘田、石井、金子、松本、荒井、北野、畑、倉又、皆川、浜野、鈴木武志、川北、越後、石川、小菅、鶴見、藤田
・作品持参者：松本、荒井、北野、畑、石川、越後、藤田

■静物撮影会

● 時間の制約で消化不足のところもあった。
希望者があれば再度行いたい。
各自、自宅での作品創りにチャレンジしてほしい。

■額装レクチャー（写真展に向けて）

● 今年は各自で額装の材料購入から行うため、当日、額装レクチャーを行った。（講師：荒井）
● 詳細資料も配布。（欠席者には後日送付）
● 経験の無い方は、ぶっつけ本番にならにより写真展までに額装マットの方法を一度練習しておいてもらうよう要請した。

■写真展関連

● 6 月例会

・DM およびプレスリリース用の作品を２～４点決定する。
・写真展候補作品選定も行う。
・昨年 12 月以降の例会持参プリントを改めて持参すること。（新作も可）

● 7月例会

・DM プレスリリース用作品に選定された方は、大キャビネ(RC で可)を 40 枚ずつこの日に提出。

・写真展候補作品選定も行う。

・昨年 12 月以降の例会持参プリントを改めて持参すること。（新作も可）

● ８月例会

・写真展候補作品選定を行う。（８月がラスト）

・昨年 12 月以降の例会持参プリントを改めて持参すること。（新作も可）

● ９月例会

・写真展サイズプリントチェック

● １０月例会

・写真展サイズプリントチェック(10 月がラスト)

（注）例会欠席の方は、随時作品を中島先生に送ってもらう。

■ポートフォリオ

● チェック OK となったプリントは、各自サインとエディションを入れて中島代表あて５月末までに郵送する。

・追記：OK となっていないプリントは指示に従って焼きなおしの上、サインせずに郵送する。

（日程が厳しい場合分納も可。ただし最低でも５枚以上。）

● 6 月以降、例会とは別の席でプリントの最終チェック、スポッティング等を行う。

（日程などは検討中）

● 表のサイン用高耐久性国産ペンが見つかった。

「サクラピグマ 03」(150～200 円くらい)

（水性だが乾きは比較的早い）

（03 とは先端の太さで、0.3mm という意味）

● 表のサインの文字高さは 6mm 以内とする。

(マットしやすいように)

● 裏のサインは、柔らかめの鉛筆を使用。

● サインした後は、サインのインクや鉛筆のカスが他のプリントに付かないよう、プリントは１枚毎個別に袋に入れるか、合い紙をはさんで保管すること。

■田中英司氏の遺品について

● 複数希望者のあるもので未調整のものは、当事者間で話し合いをお願いする。

● No.39 と 43 を除く写真作品は、フレームを別途にして金額を変更し、継続募集する。

2011 年 6 月 11 日(土)

文京区シビックセンター 5A 会議室

・出席者：中島代表、橘田、石井、松本、北野、畑、倉又（実行委員会のみ)、皆川、浜野、鈴木武志、越後、鶴見、藤田、酒巻、穴澤、岡崎、葛城

・作品持参者：橘田、松本、北野、畑、浜野、藤田、酒巻、穴澤、岡崎

＊当日の例会は、中島代表都合により 13:00～15:00 となった

■ポートフォリオ

● 作品のデータは 12 日までに荒井氏宛て連絡する。

● 作品未提出の方は 6 月 17 日必着で中島先生宛て郵送のこと。

● 6 月 19 日（日）に 10 部程度を仕上げる予定。スポッティング・箱詰め作業を行う。

（場所：浜野宅）（実行委員・幹事・鈴木武志氏）

■写真展関連

● DM 候補作は中島代表より後日指定する。（例会で仮決定）

● 指定された作品は、 7 月例会に大キャビネ（(5x7)で 40 部を持参のこと。（RC ペーパー可）

■田中英司氏の遺品について

● 欠席の方は代理抽選を行い、購入者を決定した。

→ 当選の方は代金を振込むこと。

2011 年 7 月 9 日(土)

文京区シビックセンター 3B 会議室

・出席者：中島代表、橘田、松本、北野、畑、倉又、浜野、越後、酒巻、穴澤、岡崎、荒井、金子、川北

・作品持参者：橘田、松本、北野、畑、酒巻、穴澤、岡崎、荒井、金子

■暗室ワーク

● 日程は 8 月～9 月初旬の土日で申し入れている。

● 今年は大サイズ（全紙～小全紙）にもチャレンジしたい。

● 夏は液温管理が難しいが、パピトール（富士）を 24℃でテストしたところ、問題ないようだ。若干コントラストが上がるので号数を落とす必要はある。（24℃で使えるオリトーン冷黒は製造

中止？ デクトールでは色調が変わる。）

● ポートフォリオのプリントでは印画紙のエッジ、余白、裏面などにヨゴレのある作品があった。以下の項目に注意し、時々清掃すること。

＊バットのヨゴレ（家庭用の漂白剤を入れて一晩置く。洗剤でよく洗ってから使う。）

＊イーゼルの羽根のヨゴレ

（エッジなど、印画紙に触れる面）

＊乾燥ネットのヨゴレ（使用前に良く拭くこと）

＊セーフライトのフィルターは古くなるとピンホールに注意。

＊引伸ばし機のアライメントも点検・調整する。

● そのほか、ピントルーペ、タイマーなども点検すること。

■ビューイングフィルター

● ビューイングフィルター（ラッテン＃90）の入手が困難。代替品を探している。

■ポートフォリオ

● １０点を箱入れ、ほぼ完成した。

● 残り２０点は７月中に完成させる。

（実行委員・幹事・・・7 月 23 日 10～18 時　三省堂本社ビル 301 会議室）

● 写真展にあわせてアサヒカメラに持ち込みたい。

● 各自、過去の写真展出品作をまとめて自分のポートフォリオを作ることを勧める。
● リストには撮影場所も記入する（希望者のみ）。荒井委員長に連絡願う。

■写真展関連
● 候補作が少ないが、8 月例会でほぼ決めたい。
● DM 用の 5×7 プリントは 8 月例会までに用意すること。（該当者）

2011 年 8 月 13 日(土)

文京区シビックセンター 5A 会議室
・出席者：中島代表、橘田、松本、北野、畑、倉又、越後、酒巻、穴澤、岡崎、荒井、金子、川北、臼井、石井、鈴木武志、皆川、鶴見
・作品持参者：橘田、松本、北野、畑、越後、酒巻、穴澤、岡崎、荒井、金子、川北、臼井

■ポートフォリオについて　（中島代表）
● 参加会員には完成しだい送料着払いで送付する。
● スポッティング、余白汚れなどの修正作業を要する作品が多かった。
● 10 部は完成し、先日アサヒカメラ誌に紹介した。（11 月号掲載？）
● 一般への販売価格は 12 万円とする。　（ただし、年内予約には割引を検討中）
● ジョナサン・クライン（写真家）のポートフォリオレビューで紹介した。
「21 世紀の写真にも関心を持つべきだ」という意見をもらった。

■写真展関連
● 出品作品の決定・・・８月例会で未定の人は候補作を中島代表あて送付。プリントサイズも中島代表と相談して決定すること。
● 本番サイズプリントのチェック・・・９月例会にて持参。又は中島先生あて送付。
● プリントは２枚以上完成のこと（展示用＋研究会保存用）
● 額装のチェック・・・１０月例会にて額装持参
● 11 月例会（11 月 5 日←日程変更注意）にて最終チェック、当日コスモス宛て発送。
● 展示作業・・・11 月 7 日（月）14 時～ ギャラリーコスモスにて
● 搬出作業・・・11 月 20 日（日）17 時～　〃
● 額装材料の簡易入手方法資料を荒井委員長から改めて連絡する。（前回の資料は選択肢が多く、悩んでいる人が多いため）
● フラットニング作業など、中島先生宅で行う日程を別途設定する
● 参加費仮払い（１万円）9 又は 10 月例会で集金（酒巻委員）
● ＤM完成：10 月例会
（約 400 枚を研究会から投函）
● オープニングパーティ・・・11 月 12 日（土）17～19 時予定
● レクチャー・・・詳細計画中
● 写真展会場にはポートフォリオの見本を展示する。（盗難等が心配なので、プリントは昨年の練習版を使用）

■暗室ワーク
● 9 月 3 日に工芸大暗室で行う。
● 参加希望者は 8 月 27 日までに希望ネガサイズとプリントサイズを事務局あて連絡。
● 8×10 ネガ対応の可否は中島代表が事前確認。

Information

【売ります】

中島秀雄

- **EBC フジノン 90mm/5.6 SWD　30000 円**
- **フジノン C450mm/12.5　45000 円**
- **APO ジンマー 210mm/5.6　35000 円**
- **ゴールド・ダゴール 8・1/4 (210mm)/6.8**
  （8×10カバー）　50000 円

［表紙の作品］

・作者：北野龍一
・タイトル：タイサンボク
・フィルム：KODAK TMY (T-MAX 400)　4x5
・レンズ：180mm
・絞り：f45
・シャッター：1/2 秒
・キーゾーン：蕊(Ⅵ)
・シャドウ：右下の暗部（Ⅱ）
・ハイライト：花びら(Ⅷ)

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。
（スキャナーでパソコンへ入力します。）
・パソコンの電子メール
・ウィンドウズの Word2000-2003
・text ファイル
（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）
ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］荒井　崇